

赤ちゃんへの授乳を体験する看護学生



◆看護学生が病院で就業体験◆松山 看護学生が病院の仕事を体験するインターンシップが27、28の両日、松山市文京町の松山赤十字病院であり、県内外の学生計69人が内科や外科などに分かれ、看護現場の緊張感を味わった。

28日は学生3人が産婦人科で生まれたばかりの赤ちゃんに触れた。先輩看護師が乳児の体温や心拍数を測定してお風呂に入れるのを見学した後、授乳を体験。学生は赤ちゃんを膝に乗せて優しく抱え、哺乳瓶を唇にそっとあててミルクを飲ませた。

砥部町出身で日赤広島看護大3年の河本彩里さん(20)は「学校で味わうことのできない緊張感がある。患者の気持ちをくみ取り心でつながれる看護師になりたい」と話した。

現場体験の前には病院が、新人看護師の知識や技術向上のための「研修看護師制度」について説明。2018年度から新人全員が内科系、外科系を3カ月ずつ経験することを紹介した。

(小田良輔)